

SSKO

ハイランドレポート
(高原通信)

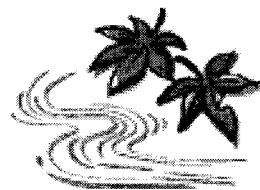
Highland report !?

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
ニュースレター 第32号(2005, 11, 10)

アディクトと自我同一性

栃木ダルク那須アディクションケアセンター
施設長 栗坪 千明

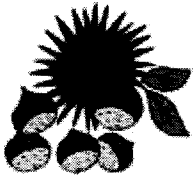
今回はアディクトの自我同一性ということについて私なりに考えてみたいと思います。自我同一性というのは、いわゆる正常な成長をしていく段階で獲得していくもので、私の理解だと思春期を経て自分のしたいこと、出来ることと社会一般的なモラルで許されている範囲、社会が望む役割などをまとめていって、生き方を決定付けていく。社会の要求と自分の要求の妥協点を見出すことが、自我同一性の獲得ということになるのだと思います。これに対しアディクトに多く見られるのは、思春期に親と分かり合えることが出来ず、それを社会全般に投影して作り上げられた対抗同一性の獲得と、親がアルコール依存などで酔うことが当たり前前の環境の中で否定同一性を獲得する。



否定同一性と対抗同一性を獲得してしまった結果として、薬物依存ということになったのではないかと私は思うのです。地元に戻り元の薬を使う生活、知らない土地で一から作り出すという生活、または施設でモラトリウム(同一化猶予)の時期を過ごす。など限らない選択肢が実は本人にはあるのです。その中で、どの方向性を見出すことが自我同一性の獲得につながるのかをあせらずにじっくりとやっていく場所が施設ではないかと思えます。



では具体的にどういうことなのかということですが、アディクトはクスリを使い始めること(あるいはそれ以前から親子関係など)によって否定同一性、あるいは対抗同一性を獲得して、自分と社会にとって良くないその人本来のものではない人格を形成してやってきます。一度この人格を

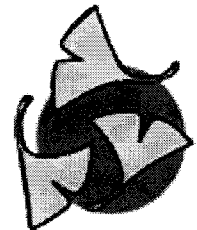


破壊してしまわないことには、アディクションで苦しめない自我同一性の獲得はできません。この人格が破壊されるにはまず過去の自分の生き方を知る必要があります。この過去を知るという作業は本人にとってとても辛い作業になります。毎日のミーティングで初めは良い面だけを話し始めます。最初から良くない面を話す人はまずいないでし

よう。例えば「クスリを使っても仕事はちゃんとやれていた。」や「クスリを使っても人に迷惑はかけていない。」などです。またはクスリの歴史や効用など薬剤師顔負けの知識やクスリは人類にとってなんなのかについての哲学を語り、自分の問題には目を向けないよう巧妙に工夫する人もいます。しかし先行く仲間たちの正直な話を毎回毎回聴くことによって、アディクト特有の共通する過去の問題が鮮明な記憶としてよみがえって来ます。そうすることによって自分を作ることをしないということを体で覚えていき、自然に本当の過去を話したほうが楽になるということを学びます。そしてこれまでの生き方を続ければまた同じことの繰り返しになってしまうということを悟るのです。

こうして過去の人格破壊が起こります。今までの慣れ親しんだ人格を失うわけですから、とても不安になり傍目にはうつ病に見えるほど弱い存在になります。このときがターニングポイントといわれる時期なのではないかと思えます。この時期が来るまでに個人差はありますが、6ヶ月から1年は要することと思えます。これには那須の施設は力になることでしょう。もちろん本当に人格の全てがダメなわけではありません、優しさや能力の高さなど残しても良い面はたくさんありますが、そのときにはそう感じられないものです。ひたすら反省の日々が続きます。その混沌としたモラトリアムのなかで少しずつ新しい人格を作り上げ、退寮間近になり、アルバイト経験などを経て、次第にそれぞれに自我同一性を獲得していくのです。それには開設することを予定している宇都宮の施設が役立つでしょう。リハビリテーション（社会復帰）にはアディクションの問題が再発しないようにNAでサービスをし続けることや感情のコントロールをする事なども含まれています。ストレスからはどうしても逃れることはできないかもしれませんが、自分の使命や要求に気づくことにより、目的のある無理の無い人生を選べることと思えます。

自分のしたいことと社会から必要とされるということが一致すればとても素晴らしいことです。



回復?

依存症のテル

自分が初めて使用した薬物はマリファナでした。その後覚醒剤を使い始めるんですが…高校を卒業して電気関係の専門学校に進学したんですが、まったく興味がなくすぐに辞めてしまいました。そのころから興味が無いことは何をしても続かないと言う強い気持ちが生まれてしまい仕事をしようとしてもどんな仕事かまた興味が無いと言って辞めてしまうのではないかと現実から逃げていて毎日毎日、遊んでばかりいました。家に帰れば、親は遊んでいないで仕事をしろの繰り返しでした。



自分でもこのままではいけないと判っていたのですが親と顔を合わせれば仕事をしろと言われるので次第に家に帰らなくなりました。毎日パチンコに行っていて月に40万円ぐらい儲けていました。そんな生活をしている自分を見兼ねた親は家に生活費を入れるか家を出て行ってくれと言われ、その頃は金もあったので家を出て一人暮らしを始めることにしました。いざ一人で生活を始めたが何も無い殺風景な部屋に寂しさだけが募り一人でいるのが嫌で嫌でたまらなくなっていました。

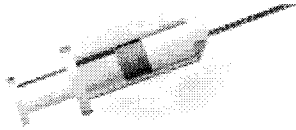
だから毎日のように友達や先輩などを家に呼んで酒を飲んでいました。だんだん酒を飲むばかりの生活に飽き始めたころに、友達がマリファナを持ってきました。見事に嵌りました。前々からマリファナは、あまり体に害は無い様な事を聞いていたので罪悪感などはまったくありませんでした。その友達たちで覚醒剤だけには手を出すのを止めようと誓っていました。

ある日、友達と一緒にマリファナを買いに行ったときイラン人の売人から「スピードもあるよ」といわれスピード?それが何かわからぬまま興味本位からやり方を聞いて早速友達と一緒に使用しました。まったく眠くならず一晩中遊んでいても疲れませんでした。毎日が楽しくて楽しくて、いつも使用するようになりました。ある日、本屋に行ってドラックの本を見つけスピードのことを調べてみたらスピード=覚醒剤と書いてあり愕然としました。小さいころに見た「人間止めますか」のフレーズの覚醒剤に手を出してしまったことに覚醒剤だけには手を出さないって決めていたのに知らなかったとはいえ手を出してしまった自分に開き直って止めることはしませんでした。その頃は吸引で使用していたので注射器で使用しなければ大丈夫だろうと言い聞かせて毎日の様に使用していました。

2年間一人暮らしをしていてアパートの更新する金も無くなり覚醒剤を使って、げっそりしているとは知らずに親は飯も食えないのなら家に帰って来いといってくれました。家に帰ったけど薬は止まりませんでした。働かないと遊ぶ金も薬の金も無いので電気工事の仕事を始めました。周りの



友達や先輩も薬を使いながら仕事をしていたんですが、みんなすぐに辞めてしまいました。自分は薬を使って仕事を辞めるなら薬を辞めればいいじゃねーか！！ってよく言っていたので薬を使っても絶対に仕事だけは休まずにいていました。薬を使っていることが親にバレるのも嫌だったので。薬を使用しながら仕事を2年位した頃に親父の工場を継ぐために仕事を変えました。小さい頃から親父のことが怖くてたまりませんでした。自分でもなぜ怖いのか判らなかつたんですが一緒に仕事をしていて理由が分かりました。怖いのではなく尊敬しすぎていて目を背けて勝手に避けていたことに自分も親父のような立派な男になりたいと思っていました。だから薬を辞めなきゃ駄目だって気持ちはあるんですが辞められませんでした。



薬を使用してから5年位たった頃、初めて親に薬を使用していることを知られてしまいました。母親は泣いていました。その時ばかりは本当に辞めなければいけない思いました。でも無理でした。今までバレずに使用していたので辞めたフリをしてうまく使用してやろうとしてました。いつもバレているんじゃないかと親の顔色ばかり気にして家にいるのが嫌になっていて仕事が終われば、すぐに友達の家に行き夜通し遊び朝帰って、そのまま仕事に行く生活を毎日のように繰り返していました。ほとんど

寝ないで仕事に行くため当然のように眠くなり車を何台も潰しました。もうその頃の自分はパクられる前に辞めればいやって気持ちでいました。

吸引で使用していたのが気が付けば注射器で使用するようになっていました。親は自分の知らないところでダルクに相談しに行っていたみたいで突然、親父に話が有るからといわれ警察に行くかダルクに行くかどちらかを選べと言われました。今まであんな悲しい顔の親父を見たことが有りませんでした。

自分の息子を警察に突き出すことなんてしたく無いけれど薬が辞められないんだろって言われました。自分の意思でダルクに行かないと意味もないし「どうする？」自分は答えは出しませんでした。二日後、母親と姉貴が警察に相談しに行ったみたいで、その日の仕事が終わった頃に警察が来て任意同行され尿検査の結果、逮捕されました。安心しました。これでやっと薬が辞められる両親に対して恨みの気持ちもまったく有りませんでした。留置所で色々考えました。ダルクに行くか行かないかをパクられて無ければ絶対に行こうと思わなかつたけれど、どうせならしっかり薬と向き合って頑張ってみようと思ひ今に至ります。

今ではダルクに来て本当に良かったなって思っています。両親にもとても感謝しています。あせらずに自分の回復をして回復した姿を迷惑をかけた家族や友人達に見せたいです。

11月予定表

- 5日 下館合同追悼ミサ
- 9日 仙台ソフトボール大会
- 9,16,23日 黒羽刑務所覚醒剤教育
- 17日 クリーンナップ
- 19日 治療共同体勉強会
- 27日 那須ケアセンターを支援する家族会

「・・・」のひとり言

今月(11月)より、トレーニー(スタッフ研修)と言う“役割”をいただきましたアディクトのマロです。元々、いろんな問題を自分で難しく考えたり、必要以上に背負ったり・・・面倒な性格の持ち主です。“新しい生き方”をするためにも避けては通れない“役割”だと痛感しています。今までは、特に“気合”を入れてとか、“力”いれてとかばかりで、お腹いっぱい失敗してきたので、これからは、自分の出来ることを自分の速度でやってみたいと思います。

この那須ケアセンターの大好きな仲間たちと一緒に“少しずつ”成長したいと思います。失敗も恐れも“仲間”に支えられながら過ごさせていただいています。

マロ

献金のお願い

11月に入り寒い日が続いておりますが、皆様におかれましては御変わりありませんでしょうか。

最近、施設の方は人数が増えてきて車を購入しました。それと、もうじき那須では雪が降ってくるため全車にスタットレスタイヤを購入しなければなりません。このままではミーティングに参加する事も出来なくなってしまうます。

いつも皆様には、ご協力を頂いており誠に恐縮ですが献金にご協力をして頂きたいと思っております。よろしくお願いたします

編集人 ノリ



発行所

郵便番号一五七一〇〇七三
東京都世田谷区砧六一二六一二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円

10月献金を下さった方々

柴田幸作様、神谷一二様、高橋美紀様、大根田光江様、湯澤対様、
西尾雅樹様、大藤禮子様、小瀬沢ウラ様、管波義三様
匿名4名様

10月献品を下された方々

枝国清美様、永田蓉子様、みつわランドリー様、鈴木平四郎様、
渡辺裕子様、尾花富美子様、渡邊伸一様、荒木純子様、
森文男様、りんどう作業所様

編集

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙 3227 番地 2

TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

Eメール n-cc@mte.biglobe.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.5f.biglobe.ne.jp/~NACC/>